

令和5年度 第2回 研究評価委員会

開催日時 令和6年3月14日（木）13:30～15:30

1. 事後評価対象課題と評価結果

	目標の達成度	得られた成果	成果の取り扱い	今後の試験研究の進め方	合計
(1)アニマルウェルフェアに即した豚の飼養管理技術の検討 (R3～5 中小家畜研究課)	4.0	4.0	3.8	3.8	15.5

○ その他特記事項等（評価委員コメント）

- ・アニマルウェルフェア（AW）を取り入れた豚肉の生産については、現状の生産コストと流通価格を考えた場合、公表されている指針の全ての項目を普及させるのは難しく、現場の実情によって取り組める項目を見つけて推進していくことが必要。
- ・現状では現場のAWの取組が消費者に知られていない。しかし、消費者のAWに対する意識も徐々に高まってくることに対応していく必要がある。
- ・畜産農家の輸出のために必要な世界水準のAWを目指すものなのか、動物の快適性に配慮した飼養管理なのかポイントを絞って進める必要がある。

※事後評価結果の数字は、各評価項目について、次の判断基準により4名の評価委員が評価した点数の平均値です。

1. 目標の達成度

- 5点：期待以上に目的を達成した
- 4点：ある程度目標を達成した
- 2点：あまり目標を達成していない
- 1点：ほとんど目標を達成していない

2. 得られた成果

- 5点：期待以上の成果が得られた
- 4点：ある程度の成果が得られた
- 2点：あまり成果が得られていない
- 1点：点ほとんど成果が得られていない

3. 成果の発展性

- 5点：大いに普及させる
- 4点：ある程度普及させる
- 2点：あまり普及させるべきではない
- 1点：普及させるべきではない

4. 今後の進め方

- 5点：関連研究を積極的に発展させる
- 4点：発展させた方がよい
- 2点：発展させない方がよい
- 1点：むしろ一線を画して完全に終了させる